



ドメインの設定

- [ドメイン設定の概要 \(1 ページ\)](#)
- [ドメイン前提条件の設定 \(4 ページ\)](#)
- [ドメインタスクフローの設定 \(5 ページ\)](#)

ドメイン設定の概要

[IM and Presence ドメイン (IM and Presence Domain)] ウィンドウに次のタイプのドメインが表示されます。

- 管理者が管理する IM アドレス ドメイン。これらは、手動で追加済であるが、どのユーザにも割り当てられていない内部ドメインか、Sync Agent によって自動的に追加されたが、その後でユーザのドメインが変更されたために使用されていない内部ドメインです。
- システムが管理する IM アドレス ドメイン。これらは、ユーザが展開で使用し、手動または自動のいずれでも追加できる内部ドメインです。

ドメインが [IM and Presence ドメイン (IM and Presence Domain)] ウィンドウに表示されている場合は、ドメインは有効になっています。ドメインを有効にする必要はありません。ローカルの IM アドレスドメインを手動で追加、更新、削除できます。

2 個のクラスタでドメインを設定することはできますが、ピアクラスタのみで使用されている場合に限りです。これは、ローカルクラスタのシステムが管理するドメインとして表示されますが、ピアクラスタで使用中等であると識別されます。

Cisco Sync Agent サービスが夜間監査を実行し、ローカルクラスタ、およびクラスタ間が設定されている場合はピアクラスタの各ユーザのディレクトリ URI を確認して、一意のドメインのリストを自動的に構築します。クラスタ内のユーザにドメインが割り当てられると、そのドメインは管理者管理からシステム管理に変わります。クラスタ内のユーザがドメインを使用しなくなった場合は、ドメインは管理者が管理するドメインに戻ります。

ドメイン設定例

Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Service は、任意の数の DNS ドメインへの柔軟なノード展開をサポートします。この柔軟性をサポートするには、展開内のすべての IM and Presence サービス ノードにそのノードの完全修飾ドメイン名 (FQDN) に設定されたノード名が必要です。IM and Presence サービス用の次のサンプルノード展開オプションについて、以下に説明します。

- 異なる DNS ドメインとサブドメインを持つ複数のクラスタ
- 異なる DNS ドメインまたはサブドメインを持つ単一のクラスタ
- DNS ドメインが Unified Communications Manager ドメインと異なる単一クラスタ

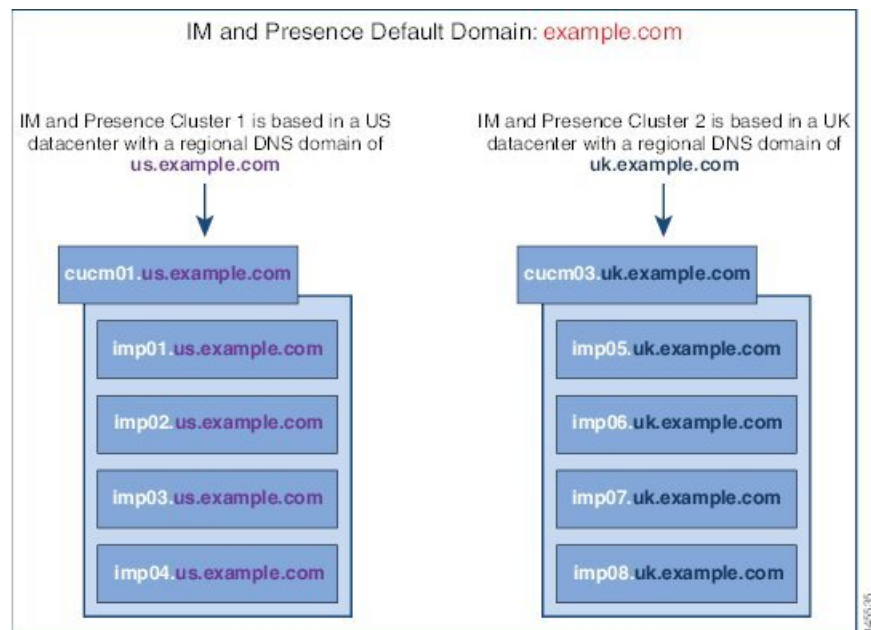


(注) ある IM and Presence サービス ノード名がホスト名だけに基いている場合、すべての IM and Presence サービス ノードが同じ DNS ドメインを共有する必要があります。

システムによって、IM and Presence サービスのデフォルト ドメインまたは DNS ドメインと一致するように設定される他の IM ドメインは必要はありません。IM and Presence サービス展開に共通のプレゼンスドメインを配置し、ノードを複数の DNS ドメインに展開できます

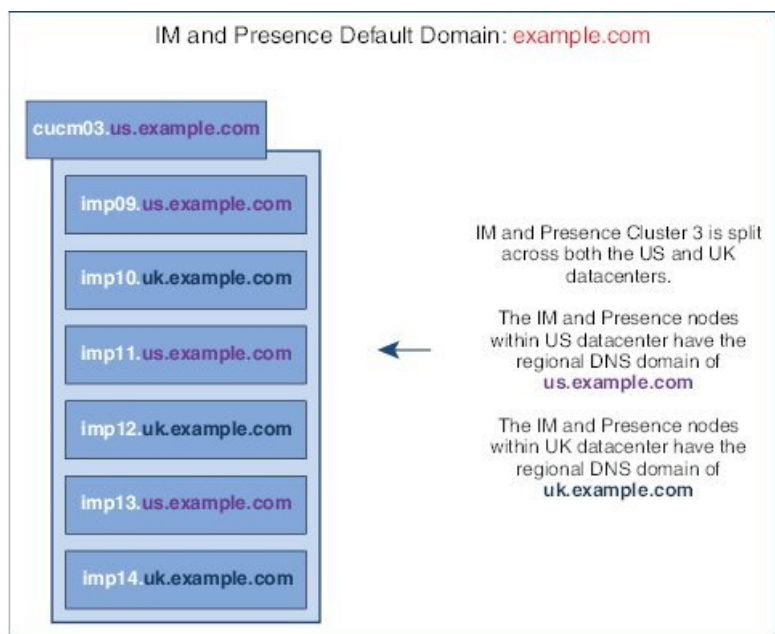
異なる DNS ドメインとサブドメインを持つ複数のクラスタ

IM and Presence Service は、ピアの IM and Presence Service クラスタを構成するノードとは異なる DNS ドメインまたはサブドメイン内の 1 つの IM and Presence Service クラスタに関連付けられたノードをサポートします。次の図に、サポートされている展開シナリオの例を示します。



異なる DNS ドメインまたはサブドメインを持つ単一のクラスター

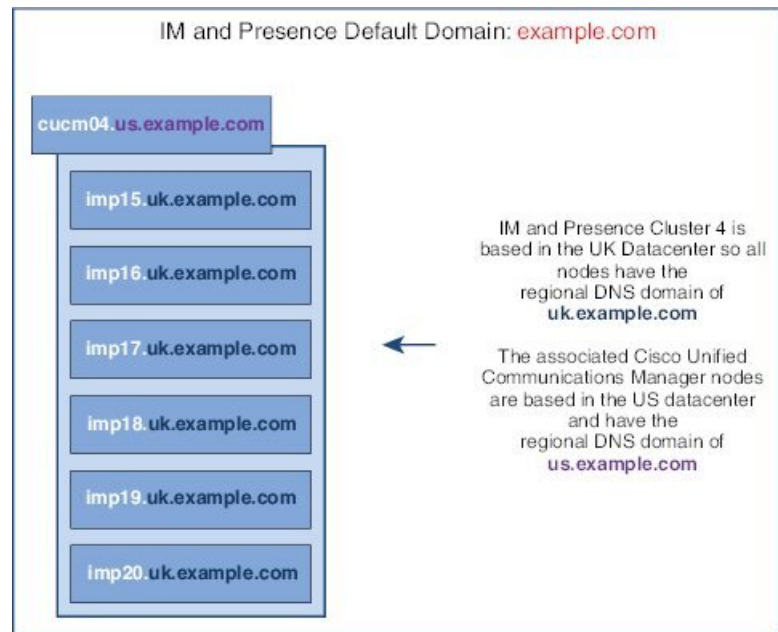
IM and Presence Service は、複数の DNS ドメインまたはサブドメインに展開された IM and Presence Service クラスター内へのノードの配置をサポートします。次の図に、サポートされている展開シナリオの例を示します。



(注) ハイ アベイラビリティは、プレゼンス冗長グループ内の 2 台のノードが別々の DNS ドメインまたはサブドメインにあるシナリオでも完全にサポートされます。

DNS ドメインが Unified Communications Manager ドメインと異なる単一クラスター

IM and Presence Service は、関連する Cisco Unified Communications Manager クラスとは異なる DNS ドメインへの IM and Presence Service ノードの配置をサポートします。次の図に、サポートされている展開シナリオの例を示します。



- (注) Cisco Unified Communications Manager との Availability 統合をサポートするには、**CUCM Domain** の SIP Proxy サービス パラメータが Cisco Unified Communications Manager クラスタの DNS ドメインと一致する必要があります。

デフォルトで、このサービスパラメータは IM and Presence データベース パブリッシャ ノードの DNS ドメインに設定されます。IM and Presence データベース パブリッシャ ノードの DNS ドメインが Cisco Unified Communications Manager クラスタの DNS ドメインと異なる場合、Cisco Unified Communications Manager クラスタのドメインを使用してこのサービスパラメータを編集する必要があります。

ドメイン前提条件の設定

- この機能を使用するには、IM and Presence Service および Cisco Unified Communications Manager のすべてのノードおよびクラスタが複数のドメインをサポートする必要があります。IM and Presence サービス クラスタ内のすべてのノードがリリース 10.0 以降で実行されていることを確認します。
- アドレス指定用にディレクトリ URI を必ず設定してください。詳細については、<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-installation-and-configuration-guides-list.html> で、『*System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』の「Configure URI Dialing」を参照してください。

ドメインタスクフローの設定

IM and Presence サービスのドメインを設定するには、次の作業を完了してください。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	ハイ アベイラビリティの無効化 (6 ページ)	高可用性が有効になっている場合は、一時的に無効にする必要があります。デフォルトドメインを変更すると、サービスを一時的に停止する必要があります。高可用性が有効になっている間にサービスを停止すると、システムのフェイルオーバーが発生します。
ステップ 2	IM and Presence サービスの無効化 (6 ページ)	ドメインを変更する前に、重要なサービスを停止してください。
ステップ 3	IM and Presence サービスのデフォルトドメインを設定します (8 ページ)	IM and Presence サービス クラスタのデフォルト ドメイン値を設定します。この手順は DNS または非 DNS 展開両方に適用できます。
ステップ 4	これらのタスクのいずれかを実行してください。 <ul style="list-style-type: none"> • IM アドレス ドメインの追加または更新 (9 ページ) • IM アドレス ドメインの削除 (10 ページ) 	これはオプションです。これらの作業は、ローカルクラスタの管理者管理ドメインを追加、編集、または削除する場合にのみ実行してください。
ステップ 5	XMPP クライアントおよび TLS 証明書を再生成します (11 ページ)	TLS XMPP フェデレーションを使用している場合、新しい XMPP クライアントおよび TLS 証明書の生成に進みます。
ステップ 6	IM and Presence サービスの開始 (11 ページ)	ドメイン設定が完了したら、サービスを再起動します。
ステップ 7	プレゼンス冗長グループでハイ アベイラビリティを有効化する (12 ページ)	高可用性を設定している場合は、もう一度有効にします。 (注) 高可用性を有効にする前に、開始したサービスがすべてのクラスタノードで実行されていることを確認してください。

ハイアベイラビリティの無効化

高可用性を設定している場合は、デフォルトドメインを設定する前に、各プレゼンス冗長グループでそれを無効にする必要があります。デフォルトのドメイン変更のためにサービスを停止したときに高可用性が有効になっていると、フェイルオーバーが発生します。



(注) [プレゼンス冗長グループの詳細] ページには、クラスタで高可用性が無効になっている場合でも、すべてのアクティブな JSM セッションが表示されます。

始める前に

各プレゼンス冗長グループの各クラスタノードに割り当てられたアクティブユーザ数を記録します。この情報は、[Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)] の [システム (System)] > [プレゼンス トポロジ (Presence Topology)] ウィンドウで見つけることができます。後で高可用性を再度有効にするときにこれらの番号が必要になります。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration のユーザ インターフェイスから、[システム (System)] > [プレゼンス冗長グループ (Presence Redundancy Groups)] を選択します。
- ステップ 2** 検索をクリックしてグループを選択します。
- ステップ 3** [プレゼンス冗長グループの設定 (Presence Redundancy Group Configuration)] ウィンドウで、[ハイアベイラビリティを有効にする (Enable High Availability)] チェックボックスをオフにします。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 5** 各プレゼンス冗長グループに対してこの手順を繰り返します。
- ステップ 6** 完了したら、さらに変更を加える前に、新しい HA 設定がクラスタ全体にわたって同期されるまで、少なくとも 2 分待機します。

次のタスク

[IM and Presence サービスの無効化 \(6 ページ\)](#)

IM and Presence サービスの無効化

この手順を使用して、デフォルトドメインに変更を加える前に IM and Presence サービスを停止します。クラスタ内のすべてのノードでこの手順を実行します。

始める前に

高可用性が無効になっていることを確認してください。詳細については、[ハイアベイラビリティの無効化 \(6 ページ\)](#) を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified IM and Presence のサービスアビリティ (Cisco Unified IM and Presence Serviceability)] から、[ツール (Tools)] > [コントロールセンター-ネットワークサービス (Control Center - Network Services)] を選択します。
- ステップ 2** [サーバ (Server)] リストから、サービスを非アクティブ化するノードを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 3** **IM and Presence** サービス (**IM and Presence Services**) で、次のサービスを選択解除します。
- **Cisco Client Profile Agent**
 - **Cisco Sync Agent**
 - **Cisco XCP Router**
- ステップ 4** [Stop] をクリックします。
- ステップ 5** [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リストから [サービスのアクティベーション (Service Activation)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 6** **IM and Presence** サービス (**IM and Presence Services**) で、次のサービスを選択解除します。
- **Cisco SIP Proxy**
 - **Cisco Presence Engine**
- ステップ 7** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 8** これらのサービスを無効にしたすべてのノードのリストを作成します。デフォルトドメインへの変更が完了したら、サービスを再起動する必要があります。
-

次のタスク

IM and Presence サービスのデフォルトメインを設定します。

- [IM and Presence サービスのデフォルトメインを設定します \(8 ページ\)](#)

また、デフォルトドメインがすでに設定されている場合は、ドメインを追加、編集、または削除するためにこれらのタスクのいずれかを実行します。

- [IM アドレス ドメインの追加または更新 \(9 ページ\)](#)
- [IM アドレス ドメインの削除 \(10 ページ\)](#)

IM and Presence サービスのデフォルトドメインを設定します

このサービスを使用して IM and Presence サービスクラスタのデフォルトドメイン値を設定します。DNS または非 DNS 展開が存在する場合、この手順を適用できます。

この手順では、IM and Presence Service のクラスタのデフォルトドメインだけを変更します。そのクラスタ内のすべての IM and Presence Service ノードに関連付けられている DNS ドメインは変更されません。IM and Presence サービス ノードの DNS ドメインを変更する方法の手順については、<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-maintenance-guides-list.html>で『*Changing IP Address and Hostname for Cisco Unified Communications Manager and IM and Presence Service*』を参照してください。



- (注) Cisco Unified Communications Manager に IM and Presence Service パブリッシャのノードを追加すると、デフォルトドメインが設定されます。ノードのインストール中、Cisco Unified Communications Manager からデフォルトドメイン値が取得できない場合、デフォルトドメイン値は「DOMAIN.NOT.SET」にリセットされます。IM and Presence Service のデフォルトドメイン値を有効なドメイン値に変更するには、この手順を使用します。

始める前に

高可用性が無効になっていること、および不可欠な IM and Presence サービスが停止していることを確認してください。詳細は、[IM and Presence サービスの無効化 \(6 ページ\)](#) を参照してください。

手順

- ステップ 1 IM and Presence サービスのデータベース パブリッシャ ノードにログインします。
- ステップ 2 [Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)] で、[プレゼンス (Presence)] > [設定 (Settings)] > [詳細設定 (Advanced Configuration)] を選択します。
- ステップ 3 [デフォルトドメイン (Default Domain)] を選択します。
- ステップ 4 [ドメイン名 (Domain Name)] フィールドに、新しいプレゼンスドメインを入力し、[保存 (Save)] を選択します。

システムアップデートは完了まで最長で1時間かかる場合があります。アップデートに失敗すると、[再試行 (Re-try)] ボタンが表示されます。変更を再適用するには、[再試行 (Re-try)] をクリックします。または [取消 (Cancel)] をクリックします。

次のタスク

TLS XMPP フェデレーションを使用した場合、[XMPP クライアントおよび TLS 証明書を再生成します \(11 ページ\)](#) に進みます。

IM アドレス ドメインの追加または更新

ローカルクラスタで管理者管理ドメインを追加または編集できます。他のクラスタに関連付けられている、システムが管理するかまたは管理者が管理するドメインは編集できません。

システム管理ドメインが使用中であるため、編集できません。その IM アドレス ドメインのシステムにユーザが存在しない場合（たとえば、ユーザが削除された場合）、システム管理ドメインは自動的に管理者の管理ドメインになります。管理者の管理ドメインは編集または削除できます。

始める前に

高可用性が無効になっていること、および不可欠な IM and Presence サービスが停止していることを確認してください。詳細は、[IM and Presence サービスの無効化 \(6 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM IM and Presence Administration で、**Presence >> ドメイン** を選択します。
すべての管理者の管理 IM アドレス ドメインとシステム管理 IM アドレス ドメインを表示する [ドメインの検索と一覧 (Find and List Domains)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 2** 次のいずれかの操作を実行します。
 - [新規追加 (Add New)] をクリックすることで、新しいドメインを追加します。[ドメイン (Domains)] ウィンドウが表示されます。
 - ドメインのリストから編集するドメインを選択します。[ドメイン (Domains)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 3** 最大 255 文字の一意的なドメイン名を [ドメイン名 (Domain Name)] フィールドに入力し、[保存 (Save)] をクリックします。
各ドメイン名はクラスタ全体で一意的である必要があります。指定できる値は、すべての大文字または小文字 (a-zA-Z)、すべての番号 (0-9)、ハイフン (-)、またはドット (.) です。ドメイン ラベルの区切り文字はドットです。ドメイン ラベルの先頭文字をハイフンにすることはできません。最後のラベル（たとえば、.com）の先頭文字を数字にすることはできません。たとえば、Abc.1om は無効なドメインです。
-

次のタスク

TLS XMPP フェデレーションを使用した場合、[XMPP クライアントおよび TLS 証明書を再生成します \(11 ページ\)](#)に進みます。

IM アドレス ドメインの削除

Cisco Unified CM IM and Presence の管理 GUI を使用して、ローカル クラスタにある管理者の管理 IM アドレス ドメインを削除できます。

システム管理ドメインは使用中のため削除できません。その IM アドレス ドメインのシステムにユーザが存在しない場合（たとえば、ユーザが削除された場合）、システム管理ドメインは自動的に管理者の管理ドメインになります。管理者の管理ドメインは編集または削除できません。



- (注) ローカル クラスタとピア クラスタの両方に設定された管理者の管理ドメインを削除すると、ドメインは管理者の管理ドメインのリストに保持されます。ただし、そのドメインはピアクラスタでのみ設定済みとマークされます。完全にエントリを削除するには、設定されたすべてのクラスタからドメインを削除する必要があります。

始める前に

高可用性が無効になっていること、および不可欠な IM and Presence サービスが停止していることを確認してください。詳細は、[IM and Presence サービスの無効化 \(6 ページ\)](#)を参照してください。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM IM and Presence Administration で、**Presence > ドメイン**を選択します。
- すべての管理者の管理 IM アドレス ドメインとシステム管理 IM アドレス ドメインを表示する **ドメインの検索と一覧 (Find and List Domains)** ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 次の方法の 1 つを使用して削除する管理者の管理ドメインを選択し、次に [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
- 削除するドメインの横のチェックボックスをオンにします。
 - 管理者の管理ドメインのリストのドメインをすべて選択するには、[すべてを選択 (Select All)] をクリックします。
- ヒント** すべての選択をクリアするには、[すべてをクリア (Clear All)] をクリックします。
- ステップ 3** [OK] をクリックして削除を確定するか、[取消 (Cancel)] をクリックします。

次のタスク

TLS XMPP フェデレーションを使用した場合、[XMPP クライアントおよび TLS 証明書を再生成します \(11 ページ\)](#)に進みます。

XMPP クライアントおよび TLS 証明書を再生成します

IM ドメインを変更したら、XMPP クライアント証明書または TLS 証明書を再生成する必要があります。

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified IM and Presence OS の管理 (Cisco Unified IM and Presence OS Administration)] で、[セキュリティ (Security)] > [証明書の管理 (Certificate Management)] を選択します。
- ステップ 2 [検索 (Find)] をクリックして、証明書の一覧を生成します。
- ステップ 3 **cup-xmpp-s2s** 証明書をクリックしてください。
- ステップ 4 証明書の詳細ウィンドウで、**再生成** をクリックします。

IM and Presence サービスの開始

デフォルトドメインに変更を加えたら、この手順を使用してすべてのクラスタノードで IM and Presence サービスを再起動します。

始める前に

[XMPP クライアントおよび TLS 証明書を再生成します \(11 ページ\)](#)

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified IM and Presence のサービスアビリティ (Cisco Unified IM and Presence Serviceability)] から、[ツール (Tools)] > [コントロールセンタ-ネットワークサービス (Control Center - Network Services)] を選択します。
- ステップ 2 [サーバ (Server)] リストから、サービスを再アクティブ化するノードを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 3 **IM and Presence** サービス領域で、次のサービスを選択します。
 - Cisco Client Profile Agent
 - Cisco Sync Agent
 - Cisco XCP Router
- ステップ 4 [再起動 (Restart)] をクリックします。

ステップ5 [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストから [サービスのアクティベーション (Service Activation)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

ステップ6 **IM and Presence** サービス領域で、次のサービスを選択します。

- Cisco SIP Proxy
- Cisco Presence Engine

ステップ7 [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

[プレゼンス冗長グループでハイアベイラビリティを有効化する \(12 ページ\)](#)

プレゼンス冗長グループでハイアベイラビリティを有効化する

デフォルトドメインを変更して **IM and Presence** サービスを再起動した後、プレゼンス冗長グループの高可用性を有効にできます。

始める前に

すべてのサービスが実行されている必要があります **IM** と **プレゼンス** 高可用性を有効にする前に、データベースパブリッシャノードとサブスクライバノードを追加してください。サービスを再起動してから 30 分以内である場合は、ハイアベイラビリティを再度有効にする前に **Cisco Jabber** セッションが再作成されたことを確認します。十分な時間を確保しない場合、セッションが作成されていない **Jabber** クライアントで **プレゼンス** は機能しません。

Cisco Jabber セッションの数を取得するには、すべてのクラスタ ノードで `show perf query counter "Cisco Presence Engine" ActiveJsmSessions` CLI コマンドを実行します。アクティブセッションの数は、ハイアベイラビリティを無効にした際に記録したユーザ数と一致するはずです。

次の段階で、シスコのリアルタイム監視ツール (RTMT) を使用して、パブリッシャとサブスクライバの両方でパフォーマンスカウンタ `"CiscoPresenceEngine" ActiveJsmSessions` を監視する必要があります。

- パブリッシャまたはサブスクライバを再起動した後
- Cisco XCP Router の再起動後
- Cisco Presence Engine の再起動後

高可用性を有効にする前に、`"CiscoPresenceEngine" ActiveJsmSessions` の数がノードに割り当てられたユーザの数と同じである必要があることを確認してください。



(注) 必ずユーザの `ActiveJsmSessions` の作成が完了した後でのみ、高可用性を有効にします。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration のユーザ インターフェイスから、[システム (System)] > [プレゼンス冗長グループ (Presence Redundancy Groups)] を選択します。
 - ステップ 2 検索をクリックしてグループを選択します。
[プレゼンス冗長グループの設定(Presence Redundancy Group Configuration)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 3 [ハイ アベイラビリティを有効にする (Enable High Availability)] チェックボックスをチェックします。
 - ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。
 - ステップ 5 各プレゼンス冗長グループでこの手順を繰り返します。
-

■ プレゼンス冗長グループでハイアベイラビリティを有効化する